

きくワーク：ねだん、
聞こえた？（第3時）

()組 なまえ_____

先生がお店のやり取りを読みます。注文したものと、そのねだんを書こう。ねだんは100円から900円まで、100円
たんい。全部で5問、先生は2回ずつ読むよ。数字が2回出てくる問題もあるので、さいごまで聞いてね。

I

聞いて、注文したものとねだんを書こう

もんだい	注文したもの（絵か日本語でもOK）	ねだん
①		_____ yen
②		_____ yen
③		_____ yen
④		_____ yen
⑤		_____ yen

品の名前は、書けなければ絵でもOK。ねだんは数字で書こう。

2

ボーナス：いまのは「好き」？「注文」？ 聞いて○をつけよう

ア	イ	ウ	エ
好き ・ 注文	好き ・ 注文	好き ・ 注文	好き ・ 注文

同じ食べものが2回ずつ出てくるよ。ちがうのは I like と I'd like だけ。

3 店の人になって返そう ①～⑤をもう一度1つずつ聞いて、クラス全員で返そう。注文が聞こえた→OK！ わ
たすとき→Here you are. 聞こえなかった→One more time, please. 返せたら○ → ☐☐☐

4 やってみよう となりの人に、注文とねだんの2文を1回だけ言ってみよう（I'd like juice, please. How
much is it? のように）。言えたら、ここに○ → ☐☐☐

きくワーク：ねだん、聞こえた？（第3時）〔先生用・読み上げ台本〕

読み方：各問2回ずつゆっくり読む。1回目は聞くだけ、2回目で書くよう指示（Just listen. Now, write!）。③④⑤は「さいごまで聞く」問題なので、とちゅうで止めたり答えを先に言ったりしない。

① （素直な1問目。全員が書けたのを見てから次へ）

T What would you like? — I'd like a hamburger, please. How much is it? — It's 300 yen.

何になさいますか？ — ハンバーガーを。おいくらですか？ — 300円です。

② （100 は はっきりと）

T What would you like? — I'd like juice, please. — It's 100 yen.

何になさいますか？ — ジュースを。 — 100円です。

③ （言い直し。500 のあと少し間をあけて 600）

T I'd like cake, please. — It's 500 yen. ... Oh, sorry! It's 600 yen.

ケーキを。 — 500円です。…あ、ごめんなさい！ 600円です。

④ （数字が2つ出る。注文した品のねだんが答え）

T Pizza is 500 yen. Salad is 300 yen. — I'd like salad, please. — It's 300 yen.

ピザは500円、サラダは300円。 — サラダを。 — 300円です。

⑤ （売り切れ。注文し直した品が答え）

T I'd like pizza, please. — Sorry, no pizza today. — OK. I'd like spaghetti, please. — It's 400 yen.

ピザを。 — すみません、今日は売り切れです。 — わかりました、スパゲッティを。 — 400円です。

ボーナス （ア→エの順に。同じ品を2回ずつ）

T ア I like sushi. / イ I'd like sushi, please.

ア＝好き・イ＝注文（同じ おすし。ちがうのは 'd と please だけ）

T ウ I'd like milk, please. / エ I like milk.

ウ＝注文・エ＝好き（今度は 注文→好き の順）

答え：①ハンバーガー 300 ②ジュース 100 ③ケーキ 600（言い直したさいごの数） ④サラダ 300（メニューの500円ではない） ⑤スパゲッティ 400（ピザは売り切れ）／ボーナス ア好き・イ注文・ウ注文・エ好き。同じ品が2回ずつ出るので、名前では決まらない——手がかりは 'd と please だけ。「please が聞こえたら注文」も立派な聞き方。

